



◀受検組合長会議の様子

受検組合長会議を開催

J Aあきた白神

平成29年産米の概算金・買取価格について協議する受検組合長会が、9月14日に管内3地区で開催されました。

このうち能代地区では、受検組合長やJ Aなど約100人が参加。あいさつで佐藤組合長は「J Aの集荷に結び付ける概算金と、来年以降も実需・消費者との取引関係の強化を図れる販売価格の双方を鑑みて、現段階で最大の価格である13,000円の概算金を決めた。今後、さらに追加精算ができるようあきた白神米の販売に努めていく」と話しました。その後、河戸川地区受検組合長の大塚忠之さんが、消費者が求める安全・安心な「あきた白神米」を出荷しようなど4項目の申し合わせをし、参加者らは高品質米の生産・出荷を誓い合いました。



▲申し合わせをする大塚受検組合長

青年部多収穫競争会を開催

青年部

青年部（伊藤達也部長）による多収穫競争会が9月11日に行われ、29年産米の出来について確認しました。

管内の青年部員は依頼を受けた圃場を訪れ、全7カ所で刈刈りを実施。株を刈り取って、総重量などを計測し、今年の収量や刈取適期を予想しました。10 a当たりの最高収量は691.9kgで、平均収量は589.9kgとなりました。今年は、8月の低温と日照不足の影響により登熟が緩慢となっており、青未熟米も見られました。また、収量についても個人差や圃場差が大きい結果となり、部員らは、刈り取り前に圃場状況を確認することや刈取適期について話し合いました。



▲米の出来を確認する青年部員



▲粒の大きさや水分量などを検査する担当者

新米の品質検査がスタート

J Aあきた白神

29年産米の初検査が9月25日からJ Aの各倉庫で始まり、品位鑑定資格を持ったJ A職員らが、玄米の形や色、水分量などを念入りに確認しました。初日検査分は備蓄米を含め704袋で全量1等米となりました。

今年は8月中旬以降の低温や日照不足などで生育が遅れ、それに伴い稲刈り時期もずれ込んでいます。9月末時点での一等米比率は95.6%、14,785俵となっており、担当者は「1等米比率や整粒歩合も高いので品質は申し分ない。今後は刈り遅れによる胴割れや過乾燥に注意して作業をし、この水準を維持してもらいたい」と話しました。

